

わたしの主張

岡山県中学校弁論大会から

〇 2 〇

「日本に帰ってからも連絡してね。再見」今年も2週間を共にしてきた友達と別れて、たくさん

の思い出を胸に、日本に戻ってきました。私の両親は中国出身で祖父、祖母共に中国にいます。夏になると里帰りする

です。毎年私は中国へ帰ります。1年間で1度しか帰ることができないので、

た戦争、日本のしみなことはたくさんあります。でも、毎年帰るたびに思うことがあります。それは、今年出会う友達

は、私が日本から来たことを聞いてどう思うか、と接してくれるのか、とは、質問をしてくる一人

のことです。中学生になったばかりのころの私は、本当に無知でした。昔中国と日本との間に何が

あったのか、それによって、中国の人々が長い間どのよう

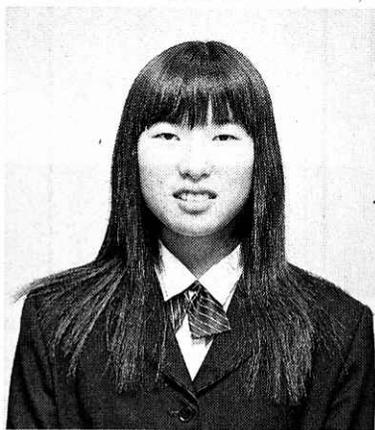
に日本人を見てきたか、日本にどんな思いを秘め

んなが私に答えを求めていました。「一応日本人だよ」。そう答えたあと、一瞬空気が凍りついたのを、私は感じました。

みんなの態度が変わってしまったのはそれからです。いつだって日本人と中国人が基準にされませんでした。みんなが話しかける時は「日本人の意

私って…

岡山県立岡山操山中3年
徳永 夏音さん



いことなのだろうかと悩み続けました。そんな私に、ある日先生が声をかけてくれました。「起きてしまったことは仕方ありません。日本が悪いのかもしれない。でも、一つだけ言えることは、あなたが

らおうとみんなと積極的に話をするようにしました。その後、理解者も増え、お互いの国の文化や学校、将来のことなど本

その中で、これからの社会を生きていく私たちにとって、まず自分の国のことを勉強し、その上で他国の歴史や文化を知り、ふれあい、理解することだ

と気づいたのです。悲しいこともたくさんありましたが、もう一方で日本と中国両側の立場から物事を見ることができ、とても幸せな

りました。

見はいい。写真を撮る時は「日本人と一緒に撮りたくない」。たに考えるようになりませんでした。

「悪いんじゃない」。写真を撮る時は「日本人と一緒に撮りたくない」。たに考えるようになりませんでした。

確かに、私自身が悪いと思います。でも、もう迷いません。私って…何人？日本人であり、中国人でもあり、そして、

「で、結局のところあなたは何人なの？」。みることもありません。くや、私自身が悪く、私自身です。